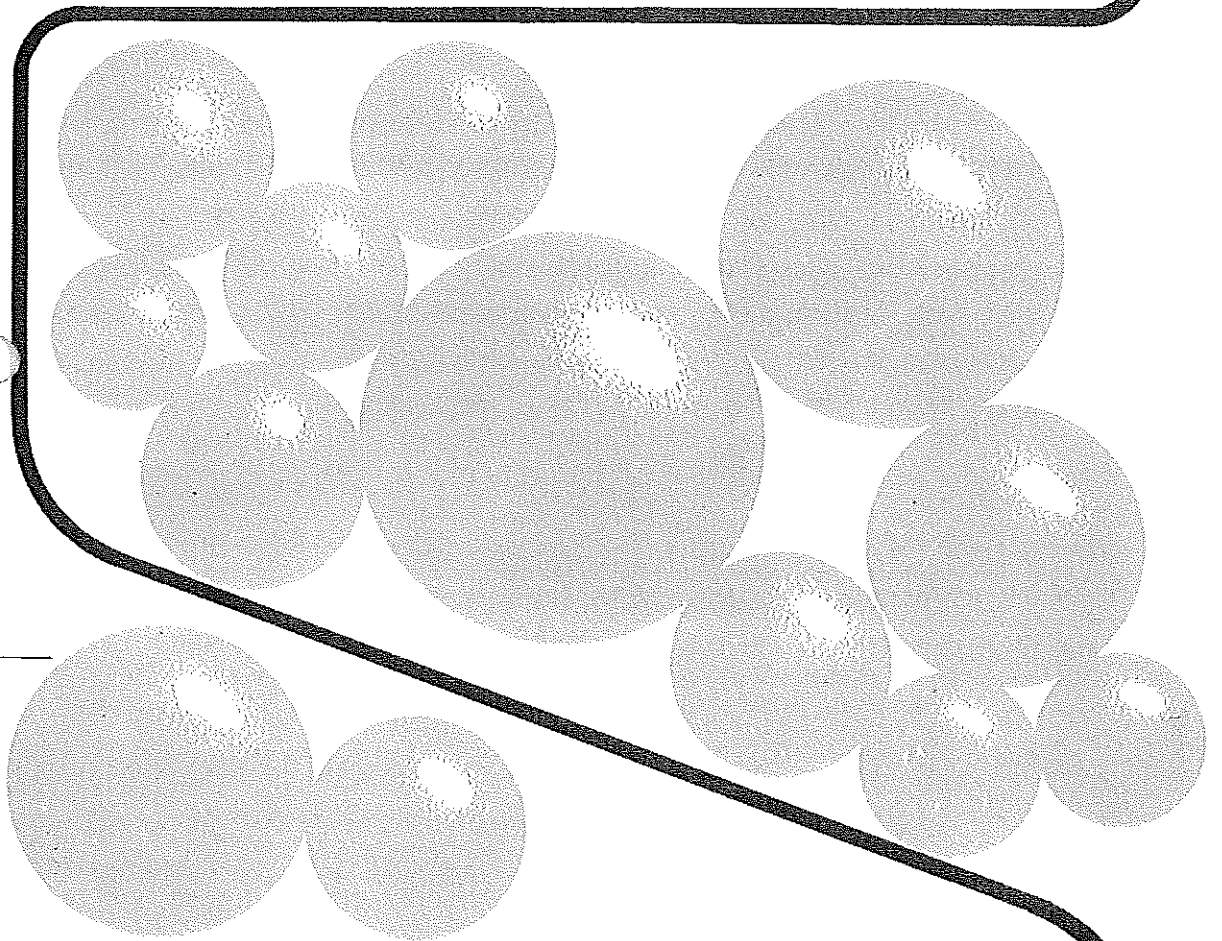


北海道行政書士会報



'74/6

No.76

総会特集号

知事メッセージ

北海道行政書士会第15回定時総会の開催を心からお喜び申し上げますとともに、日ごろ住民と行政庁とのかけ橋としての役割を担って努力しておられる会員各位に対し深く敬意を表します。

昨今激動する社会情勢や生活環境の変化に伴って、住民が行政に求めるところもきわめて多岐にわたり、国民生活と行政とは増々密接なものとなっております。

こうした情勢の中にあって、住民が会員各位に依存する度合いも一層大きく、会員各位の果たす役割は過去に例をみないほど高いものになっていることと存じます。

会員各位におかれましては、その担っておられる社会的責



代読する広藤課長補佐

任の重大さについて一層認識を深められ、新たな決意のもとに、法の趣旨に則し、社会的な期待にこたえられるよう願うものであります。

ここに、会員各位の日頃の道政に対する御協力に謝意を表するとともに、貴会並びに会員各位のますますの御精進と御発展を祈念してやみません。

昭和49年5月22日

北海道知事 堂垣内 尚 弘

昭和49年度 運営の方針

職域の確立

行政書士は、法第1条の業務によって社会的地位を保全するものであり、法第19条の規定によって明示のごとく、行政書士の業務について法律的保護がなされているにもかかわらず、永年にわたり行政書士でない者が、行政書士業務の侵犯行為で特定明確なるものが相当量を占めている現状である。これに対処するため、会員は自ら業務の開拓を図る積極性をもち、業務分野の専門的知識を習得して、業務の処理能力と受入体制の整備をなすべきであり、また法の精神に基づき、行政書士業務が正常化されるよう、組織的、系統的に連絡調整をはかりつつ、職域の確立について早期実現を期するための運営を強力に推進する。

第15回定時総会にあたって

北海道行政書士会

会長 藤 山 利 夫

昨年は、狂乱物価と云われる経済大変動の嵐に見舞れながらも、本会は……

- 報酬額の改正をはじめとして
- 行政書士啓発のため全道を駆け巡ったキャンペーン活動
- 専門業務分野確立のために業務資料の作成
- 資質向上のために業務研修会の開催
- 主要目標である「職域確立」のため監察部の設置と活発な監察活動の実施など

事業計画に対しては、役員が一丸となってこれに当り、道庁はじめ、各公共機関の特別なご援助も頂きながら、強力に推進することができました。

住民の利益保護を対象として、社会的責務を負う行政書士の資格名称が一般社会に知られることが、確立確立上の急務として昨年の全道キャンペーン活動は活発に行われ、多くの対外的な接触をもち、各方面から、我々行政書士に期待をよせている数多くの教訓を得たのであります。

また、このキャンペーン活動は、対外的成果を取めながら、対内的には早速対応すべき諸問題を発見することもできました。即時対処を始めたものもあり、また今後取上ぐべき問題も数多くあるのであります。

こうした、昨年の運営実績を基盤とし、本年度も職域確立を1本の柱として、事業を推進すべきときであり、専門的業務分野の確立と資質向上こそ、行政書士の将来を開くものと信じて疑いません。

職域確立のためには、会員は自ら、業務の開拓を図る積極的な姿勢が必要であり、それに呼応して会は、その施策を具体化して組織的、系統的に連絡調整をはかりつつ強力にこれを推進することが必要であります。

全国単位会に先がけ、本会によろしくそのきざしが見えはじめております。

芽生えた意識を大切に、その輪を広げこれを育てながら、行政書士の力とすべき秋でありその意味に置きましても、本日の総会は極めて重要な意義をもつものであります。

会が法人格をもち、自主運営を始めてから2カ年を経過しました。

永い冬眠に目覚めて歩き出した「行政書士会」。直接その代表者として現実の立場におかせられた私は、過渡的現実から色々な問題にも相違いたしました。

北海道行政書士会は、会員数も1,000名と云うマンモス会として、歩き始めたのです。

行政書士制度の確立のため、全会員が一致協力して、業界発展に寄与されるよう期待いたします。

第15回定時総会盛況

事業計画、予算など全議案可決

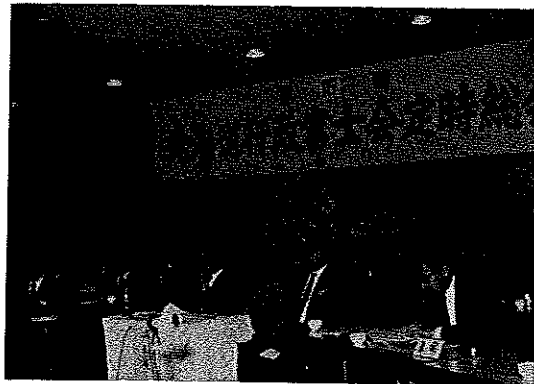
会長に藤山氏(再選), 副会長以下役員改選

第15回定時総会は、5月22日10時北海道厚生年金会館に、代議員52名、一般会員若干と執行部が出席、来賓として、

広譜地方課長補佐、丸山主事、関根司法書士会北海道協議会長、竹川土地家屋調査士会北海道ブロック協議会長、網島日行連副会長

が参列して開催され、式次第のとおり進行して、報告事項、議案を原案どおり可決して17時35分、無事閉会した。(詳細は、議事録)

印象深かったことは野崎札幌支部長、細木釧路副支部長という両エキスパートが正、副議長に就いたことである。議長席に定着するまでには再三休憩となるなど、前途が一時心



(左)執行部 (中央)議長団 (右)丸山主事

配されたが、再開するや野崎議長の議長ぶりは緩急よろしく、名議長であった。

自動車の登録は、目玉商品として十勝支部から執行部へ鋭く質問し、これに反発する札幌支部。そして任期満了による会長以下役員

の改選は、選考委員数をめぐって札幌支部と他支部との考え方の違い、最終的には1支部1委員方式で約1時間半の選考で、藤山会長以下新役員が誕生したわけである。

来賓の網島日行連副会長は、本会総会は支部代議員が活発に発言していることは、他の単会より会員意識がベターであるとし、道地方課の係官は行政書士の鋭い気力に驚いていた、と仄聞している。

総会で、代議員、一般会員が活発に発言したことは、第1次藤山執行部への批判の現われであり、第2次藤山執行部としては批判は批判として会員から再選された信頼にこたえるべく、職域確立の大目標のもとに、司決された事業計画を消化するため、健全な運営が望まれる。

なお、行政書士として功勞のあった方々に、総会席上で藤山会長から感謝状が贈られた。

第15回 定時 総会 議案 49. 5. 22

報告第1号

昭和48年度事業経過報告書

昭和48年度本会の事業経過を次のとおり報告します。

(総務部)

1. 各役員会開催の経過次のとおり

常任理事会(4回)

と き	と ころ	出席 人員	協 議 事 項
48. 4. 13	愛生館 2F	11	定時総会提出案件について (1) 会則改正について (2) 規定の作成について (3) 収支決算報告について (4) 収支予算について (5) 事業計画案について (6) 役員補充選出について (7) その他
48. 5. 12	エルム会館	10	1. 啓発用パンフレット作成について 2. 被叙勲者について 3. 総会運営について 4. その他
48. 5. 29	経済センター	11	1. 会則修正について 2. 特別委員会の設置について 3. 各部の事業推進について 4. その他
48. 10. 21	グリーン札幌	10	1. 理事会の開催について 2. 支部長会の開催について 3. 綱紀委員会について 4. 会員の実態調査について

理 事 会 (4回)

と き	と ころ	出席 人員	協 議 事 項
48. 5. 19	花びしホテル	24	1. 総会議案提出について
48. 5. 20	花びしホテル	19	1. 役員業務分掌について
48. 6. 24	書 面 決 議		1. 監察委員会設置の可否 回答(全員設置に賛成)

と き	と ころ	出席 人員	協 議 事 項
48. 7. 26 48. 7. 27	溪 林 荘	21	(総務部) 1. 年金制度の実施について 2. 行政書士法改正意見について 3. 報告事項一覧表について 4. 関連資格業団体対策について (企画部) 1. 広報活動について 2. 報州委員会の設置について 3. 青色申告会について (業研部) 1. 業務研修会実施について 2. 各支部主催の研修会について 3. 全道業務研修会の実施について (監察部) 1. 監察部のありかたについて 2. 違反事項の情報報告について 3. 行政書士の実態調査について (経理部) 1. 会費徴収について 2. 会費滞納者の状況とその処置について
48. 11. 28	都 市 会 館	15	1. 運営の中間報告と予算の組替について 2. 会員の实態調査について 3. 支部の運営について 4. 49年定時総会の日程について 5. 報酬額の運用について 6. その他

正副会長及び部長会 (7回)

と き	と ころ	出席 人員	協 議 事 項
48. 4. 6	事 務 局	6	部長会議
5. 11	〃	2	正副会長会議
5. 26	〃	4	部長会議
7. 13	〃	5	部長会議
8. 4	〃	6	部長会議
49. 1. 10	〃	5	部長会議
2. 25	〃	7	部長会議

支 部 長 会 議 (4回)

と き	と ころ	出席 人員	協 議 事 項
48. 5. 19 5. 26 5. 27	花びしホテル 溪 林 荘	19 18	1. 総会議案提出について (総務部) 1. 年金制度の実施について 2. 行政書士法改正意見について 3. 報告事項一覧表について 4. 関連資格業団体対策について (企画部) 1. 広報活動について 2. 報酬委員会の設置について 3. 青色申告会について (業務部) 1. 業務研究会の実施について 2. 各支部主催の研修会実施について 3. 全道業務研修会の実施について (監察部) 1. 監察部のありかたについて 2. 違反事項の情報報告について 3. 行政書士業務の実態調査について (経理部) 1. 会費徴収について 2. 会費滞納者の現況及びその処置について
48. 11. 28	都 市 会 館	14	1. 会員の实態調査について 2. 支部の運営について 3. 49年定時総会の日程について 4. 報酬額の運用について
49. 2. 1	グリーン札幌	22	1. 行政書士の実態調査について 2. 支部運営について 3. その他

行政書士登録業務

と き	と ころ	出席 人員	協 議 事 項
48. 8. 22	センチュリーホテル	10	登録資格審査委員会
48. 10. 17	書 面 決 議		資格審査の決議
49. 1. 23	第 一 ホ テ ル	10	登録資格審査委員会

48年度登録事務受理件数調

登録申請の受理件数	適法者でないため登録を却下したもの	登録適法者として決定したもの
129	1	128

支部総会、講習会、研修会

と き	と ころ	行 事
48. 4. 15	室 蘭 支 部	総 会
4. 21	空 知 支 部	総 会
4. 30	網 走 支 部	総 会
48. 5. 6	網 走 支 部	業務研修会 (風俗衛生)
6. 2	釧 路 支 部	総 会
6. 2	網 走 支 部	業務研修会 (建設業務)
6. 12	旭 川 支 部	総 会
7. 2	室 蘭 支 部	研 修 会
7. 9	網 走 支 部	幹部研修会
7. 23	網 走 支 部	研修会 (建設)
8.18・19	函 館 支 部	研 修 会
8. 21	札 幌 支 部	研 修 会 (建設)
8. 24	室 蘭 支 部	研 修 会 (運輸)
8. 25	札 幌 支 部	研 修 会 (民法)
9. 18	札 幌 支 部	研 修 会 (建設)
9. 18	札 幌 支 部	臨 時 総 会
9. 22	函 館 支 部	研 修 会 (建設)
10. 26	十 勝 支 部	研 修 会 (運輸)
10. 29	札 幌 支 部	研 修 会 (報酬額)
11. 3	網 走 支 部	研 修 会
11. 17	小 樽 支 部	研 修 会
11. 29	札 幌 支 部	研 修 会
12. 1	室 蘭 支 部	研 修 会
12. 15	小 樽 支 部	研 修 会
49. 2. 23	札 幌 支 部	総 会
2. 23	小 樽 支 部	総 会
2. 23	函 館 支 部	総 会
3. 3	日 高 支 部	総 会

各 委 員 会

と き	と ころ	出席人員	委 員 会 の 別
48. 6. 9	事 務 局	4	会報編集委員会
6. 21	事 務 局	7	農地建設土木専門委員会
6. 28	事 務 局	4	会報編集委員会
7. 6	第 一 ホ テ ル	13	監察委員会
7. 24	エ ル ム 会 館	9	"
8. 10	事 務 局	3	網紀委員会
8. 11	エ ル ム 会 館	8	報酬額改訂委員会
8. 20	エ ル ム 会 館	7	" "
9. 9	第 一 ホ テ ル	7	" "

と き	と ころ	出席人員	委 員 会 の 別
48. 10. 16	事 務 局	4	会報編集委員会
11. 21	"	3	網紀委員会
11. 30	"	3	会報編集委員会
12. 5	"	3	網紀委員会
49. 2. 13	"	3	会報編集委員会
2. 15	エ ル ム 会 館	10	監察委員会

日 行 連 会 議

と き	と ころ	協 議 事 項
48. 6. 16	熱 海 市	日行連定時総会 (会長ほか5名)
9. 1・2	東 京 都	日行連部長会に指導要請により出席 (会長)
49. 2. 3	"	日行連運輸業務特別対策委員会 (会長、黒島副会長)
3. 7	"	" " (黒島副会長)
3. 21	"	" " (会長、黒島副会長)
3. 23	"	全国単位会長会議 (会長、黒島副会長)

渉外業務 (諸官庁、団体)

と き	と ころ	用 件
48. 4. 21	道 地 方 課	助成金交付要請 (会長、星副会長)
5. 15	ロ ー ヤ ル ホ テ ル	土地家屋調査士会総会 (星副会長)
5. 27	自 治 会 館	司法書士会総会 (会長)
6. 11	厚 生 年 金 会 館	社会保険労務士会総会 (会長)
6. 27	道 地 方 課	助成金交付要請、事務打合せ (会長、星副会長)
7. 4	"	報酬額改訂業務折衝
8. 23	事 務 局	京都大阪会副会長業務視察来局
8. 27	道 地 方 課	助成金交付要請 (会長、星副会長)
9. 25	陸 運 局	業務打合せ
10. 11	札 幌 市 長	職域確保協力要請 (会長、札幌支部長)
11. 28	東 京 都	叙勲申請のため (会長)
12. 12	道 地 方 課	助成金交付要請 (会長、星副会長)
49. 1. 12	グ ラ ン ド ホ テ ル	衆議院議員安田貴六氏に挨拶 (会長、星副会長外)
1. 25	道 地 方 課	助成金交付要請 (会長、星副会長)
1. 26	グ ラ ン ド ホ テ ル	資格者団体懇親会 (会長ほか)
3. 16	陸 運 局	業務打合 (会長、星副会長、葛西常任理事)

(企画部)

業務	内容
行政書士制度の啓蒙と普及	1. 文書活動 全道市町村及び関係官庁と農業委員会等各団体に文書をもって窓口における行政書士の職域確立について依頼した。 2. ポスター、パンフレットの配付 全会員に配付と共に関係官庁に対し、PRした。 3. キャンペーン活動 8月30日 9月3日 釧路、根室、十勝地区 9月12日 9月16日 網走、北見地区 9月27日 9月30日 上川、宗谷地区 10月17日 10月20日 函館(室蘭一部)地区 12月1日 12月3日 苫小牧、日高地区 (留萌は支部に依頼) 1月21日 1月23日 室蘭(白老、登別)地区 (小樽地区は未了)
会報発行	定時発行6回、総会特集1回、計7回
幹部研修会	8月27日理事、支部長、綱紀委員を対象として、行政書士法について研修した。 講師 道古江地方係長
行政事務	13支部において住民の利便を図るため夫々実施した。
無料相談	相談件数 計 303件

(業務研修部)

とき	ところ	行事
48. 4. 14	事務局	民事業務資料作成打合せ(黒島部長、亘委員)
6. 8	"	業研、企画、監察合同部会
7. 15	第一ホテル	業研、企画部会
8. 11	エルム会館	業研、企画資料打合
9. 1・2	釧路市	業務研修会(道東地区)
9. 15	北見市	"(道北地区)
9. 28・29	旭川市	"(道央地区)
10. 14	エルム会館	"
10. 19・20	函館市	"(道南地区)
11. 4	エルム会館	業研企画合同部会
11. 26・27	都市会館	全道業務研究会
49. 1. 13	中殿会館	業研企画合同会議
2. 9	エルム会館	業研部会
3. 17	プリンスホテル	自動車登録業務対策会議
3. 24	安藤ビル	"

(監察部)

とき	ところ	出席人員	用務
48. 7. 6	第一ホテル	13	監察委員会
7. 24	エルム会館	9	"
8.30・31	釧路地区		釧根自動車協会実態調査 一般状況調査(キャンペーンと併行)
9. 12	網走地区		状況調査(キャンペーンと併行)
9. 26	旭川地区		"
10. 18	函館地区		"
12. 2	日高地区		"
12. 3	札幌地区		農地関係業務窓口実態調査(西区、白石区農業委員会)
12. 15	エルム会館		監査委員会
49. 2. 26	函館市		実態調査(運輸関係) 陸事、自家用協会、陸運協会、整備振興会、自販連
3. 7	室蘭市		陸事、自動車登録業務の調査
3. 11	帯広市		"
3. 12	釧路市		"
3. 14	北見市		"
3. 15	旭川市		"

報告第2号

昭和48年度収支決算書

収入の部

決算期 自 昭和48年4月1日
至 昭和49年3月31日

款項目	節	予算額	決算額	増減	摘要
会費		(17,720,000)	(15,917,015)	(△1,802,985)	
	入会金	800,000	1,090,000	290,000	新規入会者109名分
登録手数量	会費	16,920,000	14,827,015	△2,092,985	会員946名(年度中途入会者を含む)
	登録手数料	(500,000)	(640,000)	(140,000)	登録申請者128名分
繰越金		500,000	640,000	140,000	
	繰越金	(40,616)	(40,616)	(0)	47年度剰余金
過年度収入		40,616	40,616	0	
	過年度収入	(1,117,815)	(959,995)	(△157,820)	47年度分未納会費他
諸収入		(1,117,815)	959,995	157,820	
		(1,822,000)	(1,105,387)	(△716,613)	
	預金利子	12,000	11,947	△53	
受入助成金	特別会費 よりの繰入金	1,770,000	970,000	△800,000	
	雑収入	40,000	123,440	83,440	
		(3,000,000)	(3,000,000)	(0)	
		3,000,000	3,000,000	0	
	計	24,200,431	21,663,013	△2,537,418	
	預り金		112,840	112,840	
	仮受金		663,372	663,372	
合計		24,200,431	22,439,225	△1,761,206	

支出の部

1 款 総務管理費

予 算	16,301,200	増	1,701,988
決 算	14,599,212	減	

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
会 議 費	(2,504,000)	(2,028,959)	(475,041)	総会 1 回、支部長会 4 回、理事会 4 回、 常任理事会 4 回、部長会 7 回、部会 5 回 監査会 2 回
旅 費	2,215,000	1,792,420	422,580	
借 上 料	89,000	84,520	4,480	
印 刷 費	150,000	139,410	10,590	
通 信 費	50,000	12,609	37,391	
支 部 交 付 金	(3,470,000)	(2,932,700)	(537,300)	各支部交付金 1 人 月額 250円
支 部 交 付 金	3,470,000	2,932,700	537,300	
負 担 金	(1,692,000)	(1,513,600)	(178,400)	日行連負担金 1 人 150円
連 合 会 費	1,692,000	1,513,600	178,400	
旅 費	(1,540,000)	(1,530,250)	(9,750)	代議員、会長会ほか 会議、行事、出席旅費
道 外 旅 費	710,000	709,060	940	
道 内 旅 費	830,000	821,190	8,810	
涉 外 費	(530,000)	(526,750)	(3,250)	
涉 外 費	530,000	526,750	3,250	
事 務 局 費	(2,799,200)	(2,482,295)	(316,905)	職員 3 名 給料 賞与、燃料、手当等 労働保険 臨時職員給
給 料	1,800,000	1,640,607	159,393	
職 員 手 当	799,200	724,119	75,081	
厚 生 福 利 費	100,000	26,969	73,031	
賃 金	100,000	90,000	9,400	
需 要 費	(3,430,000)	(3,276,258)	(153,742)	リコピー機他 郵便料 事務室借上料 共通管理費 総会、研修会弁当料
備 品 費	120,000	110,700	9,300	
消 耗 品 費	150,000	140,965	9,035	
印 刷 費	800,000	795,970	4,030	
通 信 運 搬 費	900,000	840,179	59,821	
光 熱 費	120,000	102,591	17,409	
借 上 料	450,000	411,920	38,080	
ビ ル 管 理 費	60,000	53,610	6,390	
食 糧 費	630,000	629,432	568	
雑 費	200,000	190,891	9,109	
表 彰 費	(10,000)	(0)	(10,000)	
表 彰 費	10,000	0	10,000	
弔 慰 見 舞 金	(150,000)	(132,500)	(17,500)	会員弔慰見舞
弔 慰 見 舞 金	150,000	132,500	17,500	
過 年 度 支 出	(176,000)	(175,900)	(100)	47年 3 月分
連 合 会 費	176,000	175,900	100	

2 款 企 画 費

予 算	3,177,000	増	275,061
決 算	2,901,939	減	

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
会 報 発 行 費	(1,762,000)	(1,547,509)	(214,491)	会報発行費 定時発行 6 回 臨時発行 1 回 委員会 5 回
編 集 費	452,000	295,460	156,540	
印 刷 費	750,000	722,240	27,760	
旅 費	150,000	126,320	23,680	
通 信 費	350,000	348,945	1,055	
雑 費	60,000	54,544	5,456	
啓 発 指 導 費	(1,230,000)	(1,196,140)	(33,860)	行政書士用ポスター及びパンフレット印 刷料、配布料
印 刷 費	950,000	939,260	10,740	
通 信 費	40,000	32,250	7,756	
渉 外 費	60,000	56,400	3,600	
活 動 費	180,000	168,230	11,770	
研 究 費	(62,000)	(44,030)	(17,970)	業務用専門図書料
図 書 費	50,000	44,030	5,970	
研 究 費	10,000	0	10,000	
雑 費	20,000	0	2,000	
会 議 費	(23,000)	(14,260)	(8,740)	報酬額改訂、他企画会議
旅 費	15,000	12,060	2,940	
借 上 料	6,000	2,200	3,800	
雑 費	2,000	0	2,000	
行 政 事 務 所 相 談 費	(100,000)	(100,000)	(0)	室蘭行政センター補助
助 成 金	100,000	100,000	0	

3 款 業 務 研 修 費

予 算	4,001,000	増	264,840
決 算	3,736,160	減	

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
研 修 会 費	(1,175,000)	(1,081,510)	(93,490)	道内ブロック別研修会費用
旅 費	800,000	772,480	27,520	
報 償 費	50,000	40,000	10,000	
借 上 料	60,000	56,140	3,860	
印 刷 費	100,000	68,520	31,480	
通 信 費	120,000	110,675	9,325	
消 耗 品 費	5,000	3,475	1,525	
雑 費	40,000	30,220	9,780	
研 究 会 費	(128,000)	(34,000)	(94,000)	全道総合業務研究会費用
旅 費	100,000	22,740	77,260	
報 償 費	10,000	0	10,000	
借 上 料	2,000	1,000	1,000	
印 刷 費	10,000	9,480	520	

項	目	予算費	決算額	増減	摘要
	通信費	2,000	0	2,000	
	消耗品費	2,000	0	2,000	
	雑費	2,000	780	1,220	
専門委員会費		(1,734,000)	(1,685,070)	(48,930)	7 専門委員会、活動費及び業務資料作成、配布料
	旅費	200,000	189,720	10,280	
	借上料	5,000	4,820	180	
	印刷費	1,250,000	1,223,200	26,800	
	通信費	270,000	261,260	8,740	
	消耗品費	2,000	50	1,950	
	雑費	7,000	6,020	980	
需要費		(544,000)	(519,875)	(24,125)	業務研修部指導活動費
	旅費	420,000	411,070	8,930	
	借上料	20,000	18,765	1,235	
	印刷費	10,000	5,540	4,460	
	通信費	45,000	42,060	2,940	
	函書費	45,000	42,150	2,850	
	消耗品費	2,000	0	2,000	
	雑費	2,000	290	1,710	
助成金		(420,000)	(415,705)	(4,295)	支部主催研修会賛助成金 延21回
	支部研修助成費	420,000	415,705	4,295	

4 款 監察部費

予算	501,000	増	167,018
決算	333,982	減	

項	目	予算額	決算額	増減	摘要
監察部費		(501,000)	(333,982)	(167,018)	道内運輸業務の調査及び監察活動費
	にせ行政書士 対策費	100,000	0	100,000	
	旅費	350,000	319,720	30,280	
	借上料	15,000	13,062	1,938	
	印刷費	30,000	0	30,000	
	通信費	2,000	0	2,000	
	消耗品費	2,000	0	2,000	
	雑費	2,000	1,200	800	

5 款 登録資格審査委員会費

予算	56,000	増	6,525
決算	49,475	減	

項	目	予算額	決算額	増減	摘要
登録資格審査委員会費		(56,000)	(49,475)	(6,525)	委員会 2 回他審査費用
	旅費	40,000	35,560	4,440	
	借上料	15,000	13,915	1,085	
	消耗品費	1,000	0	1,000	

6 款 綱紀委員会費

予算	68,000	増	1,440
決算	66,560	減	

項	目	予算額	決算額	増減	摘要
委員会費		(59,000)	(57,900)	(1,100)	委員会 3 回他調査活動費
	旅費	51,000	50,160	840	
	借上料	8,000	7,740	260	
調査費		(9,000)	(8,660)	(340)	
	旅費	6,000	6,000	0	
	消耗品費	3,000	2,660	340	

7 款 積立金

予算	96,000	増	0
決算	96,000	減	

項	目	予算額	決算額	増減	摘要
積立金		(96,000)	(96,000)	(0)	職員退職金積立金
	退職積立金	96,000	96,000	0	

8 款 予備費

予算	231	増	231
決算	0	減	

項	目	予算額	決算額	増減	摘要
予備費		(231)	(0)	(231)	
	予備費	231	0	231	

項	目	予算額	決算額	増減	摘要
計		24,200,431	21,783,328	2,417,103	

目	予算額	決算額	増減	摘要
現金		19,994	△ 19,994	
銀行預金道銀		72,327	△ 72,327	
銀行預金道相互		165,769	△ 165,769	
振替口座		385,257	△ 385,257	
計		(643,347)	(△ 643,347)	

目	予算額	決算額	増減	摘要
仮払金		12,550	△ 12,550	No.15 定時総会場子約料
計		12,550	△ 12,550	

合計	24,200,431	22,439,225	1,761,206	
----	------------	------------	-----------	--

昭和48年度特別会計収支決算書

自昭和48年4月1日 至昭和49年3月31日

支出の部		金額	収入の部		金額
期首商品棚卸高		504,467	幹旋物収入		1,862,350
当期商品仕入高		17,500	預金利子		3,159
当期印刷工料		1,169,360	計		1,865,509
計		1,691,327	当期損失金		107,700
期末商品棚卸高		752,996	/		
差引売上原価		938,331			
事務局費	職員給料	956,678			
	発送費	78,200			
	計	1,034,878			
合計		1,973,209	合計		1,973,209

職員給料の計算基礎

事務局職員給料 2,391,695×40%=956,678円

貸借対照表

昭和49年3月31日現在

資産の部		金額	負債の部		金額
期末棚卸高		752,996	未払金		388,000
繰越欠損金		383,083			
当期損失金		107,700	48年度職員給料未払金		855,779
/			/		
合計		1,243,779	合計		1,243,779

特別会計在庫調書

昭和49年3月31日現在

品名	期首在庫	当期仕入	当期売上	残量	金額	
事件簿	104	300	239	165	@ 90	14,850
領収証	732	500	874	358	@ 140	50,120
表札	71		64	7	@ 200	1,400
パッチ	257		71	186	@ 500	93,000
略パッチ	319		115	204	@ 400	81,600
補パッチ	28	292	36	284	@ 280	79,520
会報綴	193		29	164	@ 28	4,592
3 条	15	250	226	39	@ 169	6,591
4 条	4	150	108	46	@ 190	8,740
5 条	24	250	248	26	@ 160	4,160
4 条 届	34		32	2	@ 147	294
5 条 届	15	150	86	79	@ 190	15,010
20 条	48		15	33	@ 294	9,702
便覧	178		35	143	@ 235	33,605
手引き	46		10	36	@ 250	9,000
講座	20		4	16	@ 500	8,000
交通事故一式	60		20	40	@ 530	21,200
わかりやすい建業法	23		21	2	@ 300	600
建通達	28		17	11	@ 340	3,740
建申	1,320	1,000	1,555	265	@ 340	260,100
財務諸表	400	400	589	211	@ 120	25,320
略歴書	87	500	340	247	@ 6	1,482
建設業申請の書き方	10		7	3	@ 400	1,200
計算書		500	419	81	@ 70	5,670
戸籍届記載の手引き	9			9	@ 500	4,500
自動車登録の申請		10	1	9	@1,000	9,000
合計						752,996

附表(1)

退職積立金内訳書

退職積立金	47年度積立	退職者2名退職金	積立金残高
15,135	96,000	96,000	15,135

附表(2)

財産目録

区分	金額	摘要
敷金	306,000	愛生館ビル5 F506号室 7.65坪×4,000円×10ヵ月
電話加入権	44,191	設備料30,000円 加入料300円 債券取引税31円 売却損13,860円 (251-4073) 北海道社会保険労務士会より譲渡 (251-4061)
合計	350,191	

報告第3号

昭和48年度監査報告書

昭和48年度収支会計は正確に処理されており、収支決算書も適正であることを認めた。

監査期日
上半期 昭和48. 11. 22
下半期 昭和49. 4. 24

監事 田村 英夫 ㊟
監事 染川 賢一郎 ㊟
監事 古川 広 ㊟

議案第2号

昭和49年度収支予算書

収入の部

項目	予算額			節	予算額	附記
	前年度	本年度	増減			
会費	17,720,000	19,950,000	2,230,000	入会金	1,500,000	新入会員 150名×10,000円=1,500,000円
				会費	18,450,000	970名×1,500円×12ヵ月=17,460,000円 110名×1,500円×6ヵ月= 990,000円
登録手数料	500,000	750,000	250,000	登録手数料	750,000	登録手数料 150名×5,000円=750,000円
繰越金	40,616	△120,315	△160,931	繰越金	△120,315	
過年度収入	1,117,815	1,300,000	182,185	過年度収入	1,300,000	
諸収入	1,822,000	1,052,000	△770,000	預金利子	12,000	
				特別会計 より繰入金	1,000,000	
				雑収入	40,000	
受入助成金	3,000,000	3,000,000	0	道補助金	3,000,000	
合計	24,200,431	25,931,685	1,731,254		25,931,685	

歳出

1款 総務管理費

前年度	15,269,200	2,834,800
本年度	18,104,000	

項目	予算額			節	予算額	附記		
	前年度	本年度	増減					
会議費	3,184,000	2,729,000	△455,000	旅費	2,329,000	常任理事会3回	245,000円	
						理事会3回	582,000円	
						部長会6回	281,000円	
						総務部会1回	48,000円	
支部交付金	3,470,000	3,725,000	255,000	支部交付金	3,725,000	経理部会1回	48,000円	
						監査会2回	110,000円	
						役員定額旅費	600,000円	
						支部長会2回	319,000円	
						企画部会1回	48,000円	
						業研監察部会1回	48,000円	
						借上料	100,000	総会、理事会、支部長会、常任理事会、 部長会、会場借上料
						印刷費	200,000	総会議案、予算、決算、議事録、その他
						通信費	100,000	郵便料、電話料
						13支部×50,000円	= 650,000円	
970名×250円×12ヵ月	= 2,910,000円							
110名×250円×6ヵ月	= 165,000円							

項目	予 算 額			節	予 算 額	附 記		
	前 年 度	本 年 度	増 減					
負担金	1,692,000	1,845,000	153,000	負担金	1,845,000	970名×150円×12ヵ月=1,746,000円 110名×150円×6ヵ月= 99,000円		
旅 費	1,400,000	1,085,000	△ 315,000	旅 費	1,085,000	道内旅費 560,000円 道外旅費 525,000円		
事務局費	3,119,000	5,376,000	2,257,000	給料	3,420,000	事務局員 4名 12ヵ月分		
				職員手当	1,786,000	燃料手当	130,000円	
						通勤費	116,000円	
						超勤	300,000円	
						賞与	1,100,000円	
				社保	140,000円			
厚生福利費	140,000	労働保険 60,000円 レクリエーション 80,000円						
賃 金	30,000	臨時職金						
需用費	1,968,200	2,509,000	540,800	備品費	100,000	机、椅子、脇机 2コ		
				消耗品費	150,000	事務用品		
				印刷費	530,000	事務用	80,000円	
						登録関係 会員名簿	50,000円 400,000円	
				通信運搬費	740,000	登録関係	40,000円	
						電 話 郵便料、その他	700,000円	
				光熱費	60,000	ビル電気、冷暖房料		
				借上料	504,000	ビル賃借料 42,000円×12ヵ月		
				ビル管理費	60,000	5,000円×12ヵ月		
				食糧費	315,000	総会、会議等及び役員外弁当代		
雑 費	50,000	法規、加除						
		官報公報新聞						
弔慰見舞金	100,000	150,000	50,000	弔慰見舞金	150,000	会員弔慰料		
過年度支出	176,000	0	△ 176,000	過年度支出	0			
渉外費	150,000	500,000	350,000	渉外費	500,000			
表彰費	10,000	185,000	175,000	表彰費	185,000	会員表彰、諸掛一切		
計	15,269,200	18,104,000	2,834,800		18,104,000			

2 款 企 画 費

前年度	2,343,000	△ 578,000
本年度	1,765,000	

項目	予 算 額			節	予 算 額	附 記
	前 年 度	本 年 度	増 減			
会報発行費	1,420,000	1,480,000	60,000	編集費	110,000	会報編集委員会 4回×20,000=80,000円 原稿料 6回×5,000円=30,000円
				印刷費	800,000	発行 8回×100,000円=800,000円
				通信費	560,000	会報発送費
				雑 費	10,000	

項目	予 算 額			節	予 算 額	附 記
	前 年 度	本 年 度	増 減			
啓発指導費	450,000	160,000	△ 290,000	活動費	100,000	啓発活動 修習制度
				印刷費	50,000	活動用資料
				通信費	10,000	
研究費	150,000	45,000	△ 105,000	図書費	20,000	
				研究費	20,000	
				雑 費	5,000	
会議費	73,000	0	△ 73,000			
行政相談所費	250,000	80,000	△ 170,000	助成金	80,000	札幌3 各支部12
計	2,343,000	1,765,000	△ 578,000		1,765,000	

3 款 業 務 研 修 費

前年度	5,462,000	△ 2,353,000
本年度	3,109,000	

項目	予 算 額			節	予 算 額	附 記				
	前 年 度	本 年 度	増 減							
研修会費	590,000	582,000	△ 8,000	報償費	120,000	延40人×3,000円				
				借上料	156,000	各支部 13×3回=39回 39×4,000円				
				旅 費	200,000	役員旅費				
				消耗品費	20,000					
				通信費	36,000					
				印刷費	50,000	案内、計画				
研究会費	460,000	150,000	△ 310,000	報償費	40,000	講師等謝礼				
				借上料	30,000					
				印刷費	50,000	テキスト代				
				通信費	15,000					
				消耗品費	10,000					
				雑 費	5,000					
専門委員会費	3,848,000	2,077,000	△ 1,771,000	旅 費	300,000	3回×100,000円				
				借上料	42,000	7部門×2回×3,000円				
				印刷費	1,535,000	2部門×1,300部×250円×650,000円 追録×1,300部×150円×3部門 =585,000円				
						行政書士特殊資料 1,500部×200円=300,000円				
				通信費	160,000	4回×4,000円				
				消耗品費	20,000					
				図書費	10,000					
				雑 費	10,000					
				助成金	564,000	300,000	△ 264,000	支部研修 助成金	300,000	会 場 費 講 師 謝 礼 受 講 者
								計	5,462,000	3,109,000

4款 監査部費

前年度	491,000	79,000
本年度	570,000	

項目	子 算 額			節	子 算 額	附 記
	前年度	本年度	増 減			
監察委員会費	491,000	570,000	79,000	旅 費	360,000	
				借 上 料	120,000	会場、現地車両借上
				印 刷 費	30,000	
				通 信 費	10,000	
				消 耗 品 費	10,000	
				雑 費	40,000	
計	491,000	570,000	79,000		570,000	

5款 登録資格審査委員

前年度	211,000	0
本年度	211,000	

項目	子 算 額			節	子 算 額	附 記
	前年度	本年度	増 減			
登録資格審査委員	211,000	211,000	0	旅 費	194,000	委員会旅費 3,600×円×4 調査旅費50,000円
				借 上 料	12,000	
				消 耗 品 費	5,000	
計	211,000	211,000	0		211,000	

6款 綱紀委員会費

前年度	170,000	0
本年度	170,000	

項目	子 算 額			節	子 算 額	附 記
	前年度	本年度	増 減			
綱紀委員会費	65,000	65,000	0	旅 費	50,000	
				借 上 料	15,000	
調査費	105,000	105,000	0	旅 費	100,000	
				消 耗 品 費	5,000	
計	170,000	170,000	0		170,000	

7款 積立金

前年度	102,000	△ 2,000
本年度	100,000	

項目	子 算 額			節	子 算 額	附 記
	前年度	本年度	増 減			
積立金	102,000	100,000	△ 2,000	退職積立金	100,000	

8款 予備費

前年度	152,231	1,750,454
本年度	1,902,685	

項目	子 算 額			節	子 算 額	附 記
	前年度	本年度	増 減			
予備費	152,231	1,902,685	1,750,454	予備費	1,902,685	

項目	子 算 額			節	子 算 額	附 記
	前年度	本年度	増 減			
合計	24,200,431	25,931,685	1,731,254		25,931,685	

議案第3号

役員の改選について

(議事録参照)

議案第4号

綱紀委員の改選について

(議事録参照)

参考資料(1)

会員数、代議員数調書

昭和49.4.1現在

支部名	会員数	代議員数	支部名	会員数	代議員数
札幌	320	11	網走	91	4
函館	75	3	室蘭	62	3
小樽	46	2	日高	15	1
空知	63	3	十勝	83	3
旭川	101	4	釧路	58	2
留萌	13	1	根室	11	1
宗谷	8	1	合計	946	39

参考資料(2)

昭和48年度会員移動数調書

昭和49.3.31調

支部名	入会者				退会者					49.3.31 会員数
	48.3.31 会員数	入会	転入	計	廃業	死亡	処分	転出	計	
札幌	296	50	1	347	20	6	0	1	27	320
函館	73	11	0	84	3	4	2	0	9	75
小樽	49	3	0	52	5	1	0	0	6	46
空知	64	3	1	68	4	0	0	1	5	63
旭川	100	6	2	108	6	1	0	0	7	101
留萌	14	1	0	15	0	1	0	1	2	13
宗谷	8	1	0	9	0	0	1	0	1	8
網走	87	12	0	99	5	2	0	1	8	91
室蘭	57	6	0	63	0	1	0	0	1	62
日高	14	2	0	16	1	0	0	0	1	15
十勝	76	8	0	84	1	0	0	0	1	83
釧路	57	6	0	63	4	0	0	1	5	58
根室	11	0	0	11	0	0	0	0	0	11
計	906	109	4	1,019	49	16	3	5	73	946

参考資料(3)

昭和48年度配布資料の調書

配布資料	摘要
行政書士パンフレット	行政書士業務啓発用
行政書士ポスター	行政書士業務啓発用
法令会則規程集綴	行政書士必携の規程集
会員ネームプレート	諸官庁に対する行政書士身分確認のため 会議、会合等における相互利便のため
報酬額表	事務所掲示用
行政書士の遵守事項	行政書士業務履行のための資料
会報 7回	69号～74号 6回 臨時発行（総会特集号）1回
業務資料第3集 自賠責	行政書士業務実務資料
業務資料第4集 行政書士のための製図知識	行政書士業務実務資料
業務資料第5表 建設業許可申請のための財務諸表	行政書士業務実務資料
業務資料第6集 民事	行政書士業務実務資料
業務資料第3集追録 自賠責業務改正要点	行政書士業務実務資料

議案第1号

昭和49年度事業計画書

(総務部)

1. 会員の実態調査
会務の運営、会員指導の合理化及び社会需要に対処すべき諸政策の基本資料として会員の実態を把握するために行う。
作成資料は本会、支部共に活用できるよう2部作成する。
2. 会員の品位保持
法令、規程等の遵守義務を強化するため会報等を通じて啓蒙し、綱紀委員会とも密接なる連けいを保ちながら、会員の責務と品位保持に対して積極的指導にあたる。
3. 記念事業の実施
法制定25周年、会創立15周年の記念事業として行政書士の啓発活動をかねて功労者表彰等の式典を行う。
4. 登録事務
行政書士登録資格審査委員会と緊密な連けいを図ると共に関係官庁の指導を得て公平適正な処理を行う。
5. にせ行政書士対策
行政書士会組織を通じて各部との連けいを密にして監察部及びその機構の要請にもとづいて文書その他による勧告、告発を行う。
6. 関連友好団体対策
7団体（弁護士会、司法書士会、公認会計士会、税理士会、土地家屋調査士会、社会保険労務士会、行政書士会（順不同））の運営協議会の設立と共に業務上共通の問題点の解決を図る。
7. 福祉、厚生、共済
日行連が行っている共済制度の利用を図るため会員の加入強化を図る。

(企画部)

1. 会報の発行
会務運営の動き、重要な問題、行事の速報、関係法令の改正点、業務資料、支部の動きに重点をおき本会と会員のパイプとする。
配布については会員の外に関係官庁、市町村、団体にもP・Rをかねて送付する。

定時発行（隔月奇数月）年6回
臨時発行（必要に応じ）年2回

2. 行政書士制度の啓発活動
48年度は本会の主催で、官庁団体にキャンペーンを行い、今後の協力を得た。
48年度は、運動の性格、一般社会の認識、会員自体の意識、の3点から推論して継続反復する必要があるため本年は各支部と連けいを保ち諸官庁、住民に働きかける。
3. 修習制度の確立
新入会員（1年以内）に対し、行政書士としての基礎教育を実施する。
実施方法は各支部地域毎にその実情に応じて行い細部については地元支部長と協議して行う。
4. 行政事務無料相談
地域住民の利便を図るとともに行政書士制度の周知を図るために継続事業として強化する。

(業務研修部)

1. 専門委員会の充実と活用
7部門の専門委員会を充実し各部門毎の業務を深く研究して高度の活用を図る。
(1) 各委員会の登録制を完全実施する。
(2) 各委員会は業務資料（新版追録）の編集にあたる。
(3) 専門委員会企画による業務研究会を随時開催する。
2. 業務研修会の開催
(1) 業務研修部と当該支部との協議により各支部毎に年3回以上の業務研修会を開催する。
(2) 経費は別に理事会において定める要領によって支給する。
3. 業務研究会の開催
行政書士業務の7部門中需要度の多い業務を選び総合業務研究会を開催する。

(監察部)

1. 職域の確立
(1) 自動車登録業務の確保について
自動車の登録事務は行政書士固有の業務であり、日行連と自販連との協定によって、行政書士が申請

書の記入作成に当ることに至ったが、さらに自動車販売店を初め各種団体がやっている新車又は中古車等の登録事務が正常化されるよう組織的、系統的に協議をはかりつつ確固たる態度で推進する。

(2) 食品衛生業務の確保について

食品衛生について、各官庁に提出される書類の作成は行政書士の行うべき業務であるが現在は行政書士に依頼される件数は若干でその大半は行政書士以外のものによって申請されている現状である。

従って監察部は49年度の事業計画の第1に取上げ、道内を広く調査し違反の情報収集と各地の実情調査

により実態をはあくし原因の究明と分析を行う。

2. 違法行為団体（個人）対策

違法行為の実態調査と違反内容を分析し違反事実を指摘すると共に違法団体に対し各部と連絡協議をはかりつつ確固たる態度をもって、正常化の実現を推進する。

3. 関係官公庁の理解と協力

各官公庁に対し行政書士法の理解を深めるよう文書等により啓発すると共に違反事項を通知し協力方を要請する。

第15回北海道行政書士会定時総会 議 事 録

と き 昭和49年5月22日

と ころ 札幌市中央区北1条西12丁目 北海道厚生年金会館

総 会 代議員 39名 支部長13名（理事兼務4名）
構 成 員 計 52名

出 席 者 代議員 33名 支部長 8名 役員 21名
一般会員 25名 計 87名

来 賓 北海道知事代理

総務部地方課長補佐 広譜一素

地方課主事 丸山達男

司法書士北海道協議会会長 関根克治

土地家屋調査士会 北海道ブロック協議会会長 竹川 茂

日本行政書士会連合会会長代理

副会長 網島 貞

開 会 10時20分 着席

1. 開会のことば 星副会長

2. 物故者にもくとう

物故会員の冥福を祈り黙とうをささげる（一同起立）

3. 会長あいさつ

本総会に主席した各位に対し感謝の意と臨席された来賓に敬意を表するとともに4月29日佐藤幸之助先生が本道の地方自治功労者として叙勲の栄与をうけられた。その功績を称え、あわせて同先生の経歴のあらま

しを紹介した。

つぎに昭和48年度の本会運営の衝にあたった本会役員の方に対し感謝の意を表し前年度の事業の実施状況について項目別に既要の説明をした。

特に職域確立のため全道的にキャンペーンを実施したことは、反省する点もあったが、対外的にも、また対内的にも大きな成果を収めた。

終りに自主運営をしてから2年経過した全国一の会員を有する所謂マンモス化した本会の運営にあたっては、前年度までの実績を分析するとともに反省を加え行政書士としての職域の確立に、その意識の昂揚に、また、自ら業務の開拓を図るため、会員一丸となって融和な裡に本会の運営の万全を期する決意を披瀝し協力方を要望した。

4. 表 彰

星副会長 表彰式を行なう旨を告げる。

高田総務部長 被表彰者 柏葉光雄ほか25名の氏名を読みあげる。

被表彰者を代表として旭川支部佐藤武正氏に表彰状一括会長より手交する。

5. 北海道知事メッセージ

星副会長 知事メッセージを道総務部地方課長補佐 広譜一素氏に依頼する。

同氏メッセージを朗読する。（内容前掲）

（ここで日程の一部を変更して来賓の祝辞の一部を繰上げる。

6. 祝 辞

竹川土地家屋調査士会北海道ブロック協議会会長、（都合により午後臨時席できないため変更した）

7. 議長・副議長の選出

星副会長 議長・副議長の選出方法に議場に諮る。

細木（釧路）

議長に奥山五三郎氏（小樽）

副議長に高橋武次氏（旭川）

にそれぞれ推せんすることを提案する。

佐藤（札幌） 執行部に一任することを提案する。

馬場（札幌） 佐藤代議員の提案に賛成の発言をする。（前者の提案発言後問を聞いたがまかに発言者がなかった）。

星副会長 提案が分れているので、その提案によって賛否を議場に諮る。

（このとき細木代議員より、発案の順によって採決されたいとの発言があった。）

発案順によって議場に挙手によって、その賛否をどうした結果

細木案22名、佐藤案22名の同数となった。

星副会長 両案全く同数のため、その選任を執行部に一任されたい旨了承を求めた。

（議場騒然となったため星副会長暫時休憩を宣する。）間もなく再開（休憩中協議の結果をはかる）

星副会長 細木案どおり

議長に奥山氏を、副議長に高橋氏を選出したい。

奥山（小樽支部長） 私は、辞退する。

細木（釧路） 議長席に1名は前例のないことでもないから高橋（旭川）氏を推せんしたい。

高橋（旭川） 質問する都合上、辞退する。

星副会長 細木代議員の推せん者両氏とも辞退したため、どのようにするかをはかる。

細木（釧路） 本人が辞退するなら已むを得ない。

星副会長 再度休憩を宣す。

再開（休憩中協議の結果をはかる）

星副会長 議長に札幌支部の佐藤秀三郎氏を推したい。

野崎（札幌支部長） 議長選出が採めるのは何かあると仄聞しているので……佐藤秀三郎氏の議長推せんは札幌支部長として辞退する。

（野崎支部長の発言によって、議場騒然となり、その間、

同支部長と細木代議員との間に押し問答が交わされる）
松田（網走） 第1の発言者案が採決にならないなら第2の発言者案によってすすめられたい。

星副会長 第2発言者案についても前述のように採決するに至らなかったため札幌支部から議長を選出されたい。

野崎（札幌支部長） 議長、副議長ともに引きうけられない。

（このとき執行部発言どおりに選任されたいとの議場からの発言が諸所にあった。）

星副会長 札幌支部から選出したいので賛同してほしい。（議場から多くの拍手があった。）

星副会長 選出について協議を要するので暫時休憩する。（休憩に入る。）

再 開

野崎（札幌支部長） 細木代議員（釧路）の副議長を条件として議長を引きうける。

細木（釧路） 協議のため暫時時間をかしてほしい。

（この間2分程度）

細木（釧路） 代議員として議案審議に発言する予定もあるので、副議長の職にあっても自席に於て発言することを条件として承諾する。

星副会長 議長に野崎札幌支部長を、副議長に細木代議員を推せんしたい。

（満場拍手で賛成）

野崎、細木両氏それぞれ議長席につく。

議長 就任のあいさつのち、総会が適法に成立したことを告げる。

代議員 39名 支部長 13名

計 52名 出席者 44名

8. 議事録署名員の選出

議長 署名員に南部（札幌）本村（札幌）両氏を指名したい。

（満場拍手）

9. 報 告

議長 報告第1号および第2号は関連があるので一括上程したい。

（満場「異議なし」）

報告にあたっては、別冊議案に詳細に報告されており、また各支部においても検討済みなので、要点を執行部から説明されたい。

星副会長 総務部、監察部の所掌事項について報告する。

黒島副会長 企画部、業研部の所掌事項について報告する。
榎波副会長 決算について報告する。

(報告中、議長から説明が詳しいので簡単にしよう要望)

黒島副会長 報告洩れがあったので追加報告する。

(自動車登録について、これまでの運輸対策協議会の動きを説明)

議長 監事の監査報告を求める。

梁川監事 上半期は48年11月21日に、下半期は49年4月24日、3監事によって実施したが、経理、業務ともに適正に行われている。

議長 以上で報告事項の説明が終わったので質疑に入る。

佐藤(網走) 監察部は調査、収集、勧告および摘発であるが48年度は調査だけである。また決算の監察部費も零になっているが、その実施の状況を知りたい。

星監察部長 部としては発足したばかりで実態的な活動までは手が延びなかった。また、決算は事業を実施していなかったためである。

細木(釧路) 叙勲者の対象について、従来は連合会の役員でないとその対象にならなかったものであるが、今回の叙勲にあたっては、そうした先例を打破したことはよろこばしいと前置きして、

(1) 総会を開かない支部、支部長会議に出ない支部長の指導はどうしているか。

(2) 登録資格審査委員会は、疑義のあるものだけ付議しているが、法第2条2の5の該当者調査はどうなっているか。

(3) 監察活動、キャンペーン活動の結果の指導を知りたい。

兼職者は25%いる。このうち司法書士に退会者が多いが、退会後の業務活動は、綱紀委員会に関連する。どのように取扱っているか。

(4) 年計報告は義務づけられている。この資料は臨行調会の資料になるが、未提出者に対する指導はどうなっているか。

(5) 登録未加入者の指導を知りたい。

(6) 会費滞納について、1年以上の滞納者に対して規定により、退会処分していないのが実情である。このような長期の滞納者に対する対策を知りたい。

星副会長 総会を開催しなかった支部が2カ所、支部長会議に出席できなかった支部は1カ所である。支部に強く要請し、実施するように指導したい。

会長 登録の簡単なものは、事務的に処理しているし、事務量もふえている。

事務局が専念している実情である。予算上、回数関係などからその都度実施することは困難である。公務員は、行政分野が広いので十分審議している。

黒島副会長 監察、キャンペーンの実施した結果を反省したかとの質問と思うが、監察、ブロック別研修、キャンペーンの3つをもって各地を巡回した。取組方法に判断がつかないまま実行したが、執行部としては、総括的な反省はしていない。

チラシ、ポスターを配布しながら走ったのではないかと指摘されたが、そのとおりである。支部長会議でも批判があり、もっと時間をかけて要所要所で話し合いをすべきだった。

ただ、役員は真剣に取組んだことは、認めてほしい。

星副会長 監察推進委員会を完全に運営できなかった。予算の大綱をつかんだといった程度で、49年度で実績をあげたい。

年計報告だが会則に義務づけてあるが報告数が期待に反した。全道会員の実態調査により把握して処理したい。

会費未納者に対する退会処分は、支部の実態を把握しながら支部と協議のうえで退会者のないように進めている。

本年度から納期を2期に分割して納入してもらうことにしている。

1年以上の長期滞納者については、極力退会者でないように努力する。

会長 登録者のうちの未加入者の、604名を対象にして調査をすすめている。

自主的に取消しを希望するもの、会員に加入するもの、それぞれ相当数にのぼっている。現状として会員の増が予想される。

犬飼綱紀委員 50%乃至60%が他の業務を兼務している。行政書士のみとしては40%程度である。

無資格の業務は、お互い戒めたいし、廃業時点でチェックしたい。

議長 再質問は午後の再開時に行いたい。再開は13時とし昼食のため休憩する。(ときに12時10分)

議事再会(13時5分)

議長 議事再開に先だって、被表彰者を代表して謝辞を行なう。

謝辞 佐藤武正(旭川支部)謝辞を述べる。

議長 午前引き続き質疑を再開する。

豊田(十勝)

1. 「会議次第」で報告事項も議事に入れては。
2. 常任理事の経理部長、企画部長がこの総会に出席していないのは、このような大事な総会にどうかと思う。
3. 風聞によると会長が京都の会の講師として出席した旅費を本会から支出しているというがどうか。
4. 会長が事務局に日勤しているが、手当を支給しているのか、その額はいくらか。

星副会長

1. 報告了承事項の意である。
2. 出席できない事情はわからない。
3. 本会の運営について参考にしたとの強い希望によるものである。友好団体として会長と私が出席した。
4. 半日当500円、日当1,000円である。

米倉(十勝) 職域の拡大について、会長から答弁されたい。

1. 陸運業務について、昭和49年1月以降どう取り組んできたか。これ以前に知っていたか。
2. 陸運局長に十勝支部は公開質問状を2回だした。本会に対する回答内容を知りたい。(これに関連して)

岸尾(札幌) 十勝支部の執行部に対する批判は5月10日の新聞記事といい報酬、ピラ配布など執行部と連絡をとっていない。かかる行動は、全道930名の会員の職域をあらすことにもなるので、十勝支部の釈明を求めたい。

会長

1. 昭和39年宮崎県が申し入れたのに端を発し、45年登録手続の簡素化によるコンピューター導入までの経過、そして48年11月この業務は行政書士固有の業務と自販連が認めたことを説明する。

本会として体制を整える必要があるので、この問題に対処できる時を考えつつ運営している。十勝はちょっと違うが、会員の状況を見て総合して判断している。黒島副会長は一生懸命だった。

2. 陸運局から本会に回答はもらっていない。組織というものについて支部の考え方を訊かれたことはあった。整備部長と葛西理事と話し合いはあった。

今後、官庁、団体と積極的に話し合いたい。

黒島副会長 岸尾代議員の指摘された問題は、本会にと

って不名誉である。

道新は不名誉な記事のように考えられる。取材にあたった高木記者に厳重に記事の取消しを求めた。

野際十勝支部長 札幌の代議員の言は一方面的な話で実情ではない。十勝毎日にスッパ抜かれた腹いせいの記事である。この件は執行部は知っていない。もし、十勝がしないと車の登録は、自販連ベースにならう。私は73歳、あと仕事をしても1年位である。

その私が、なんで泥をかぶってまで「車の登録」に首を突込んだか考えてほしい。

議長 この件の質問はここで打ち切りたい。

(場内に「了承」との声があった。)

高谷(函館) 「業務資料(運輸記録)」を読んでほしいと発言席にて発言し始める。

(関連質問として場内から「発言停止」議長発言を許すな」の声あり、騒然とする。)

(議長発言を制止したが、退席せず発言は続けられた。)

(一方議長席の細木副議長は、発言許可について議長と意見が相反し、代議員として発言するため自席に戻る。)

議長 前の議題とは不関連質問として場内に発言を求め

る。

高橋(旭川) 決算書は一見してすぐわかるようにしてほしい。また、赤字になった場合の処理は、榎波副会長 決算については指摘のとおり。赤字については、特別会計の充当で赤字でなくなる筈で今後絶対ないようにする。

高橋(旭川) 年1回の総会であるから経理部長が出席して説明してほしい。

議長 議事の都合上、あと二つで質疑を打ち切らしていただく。

松田(網走) スムーズな議事の運営を希望する。

特別会計の在庫調査の数字がおかしい。

黒島副会長 仕入値と売り値の価額で、市価より安い。

本会の財政のため理解していただきたい。

松田(網走) 地方会員には、運賃が加算されるので実費で幹旋してほしい。

黒島副会長 送料の軽減について考慮する。

谷本(旭川) 登録者で入会していないもの、および取消しをうけたものの処置を明確にされたい。

履歴書2通提出したものの処理について、また会費の徴収について支部に連絡がない。

本会支部間の業務連絡を徹底していただきたい。な

お今後叙勲関係について努力されたい。

細木(釧路) 議事運営について、相当時間が経過しているが、会場借用時間とにらみ合せて、運営していただきたい。

議長 了解

会長 試験合格者は自由である。履歴書2通のうち1通は本会、1通は支部にしている。本会支部間の連絡は必ずしも十分でないので配慮する。叙勲について努力する。

議長 報告文1、2、3号を承認してよろしいか。(満場拍手)

10. 議事

議長 議案第1号および第2号を一括上程したい。(満場「異議なし」)

議長 執行部の議案説明を求める。

星副会長 総務部、監察部について説明。

黒島副会長 企画部、業研部について説明。

榎波副会長 予算について説明。

議長 提案した議案について質疑に入る。

高橋(旭川) 繰越金の△印は誤りではないか。予備費が高額なのは何故か。

榎波副会長 繰越金は誤りである。予備費は記念事業と事務局態勢強化のための概算である。

会長(補足して) 事務局が狭く、現在の愛生館内で適当な面積を確保するべく努力している。これに見合う費用で、鋭意事務局の強化を図っている。

細木(釧路) 会員の実態調査は、年計報告と重複するので省略してはどうか。

関連友好団体との動きは、発表可能の範囲で、支部にも知らせてほしい。

修習制度の確立であるが、試験程度を少なくとも公務員中級程度のものに引き上げてほしい。

補助者に名義をかして、業務をしている例があるので、監察部において注意してほしい。

監察推進制度の運用について49年分を知りたい。48年は1回より会合がなかったが。

記念事業は予算を編成することが望ましい。

会長 年間報告については、その報告が完全になされていないため、実態調査を必要とする。

榎波副会長 記念事業費は、具体化したうえで、補正予算で計上する。

星副会長 友好団体については、協議会を結成する方向

ですすめたい。支部単位で実施することもよいと思う。

報州額のアップは日行連、道にも働きかける。

黒島副会長 修習制度について予算には計上していない。従って本会と支部との協議を必要とする。

星副会長 試験程度の引き上げについては、道側に折衝をしている。道においても以前から検討をしている状況である。

補助者の届出については欠陥がある、職務にあった制度にしたい。

その問題については、全国的問題なので日行連と共に解決方向に努力したい。

監察の件は、広範囲であるし継続して連絡をとりながら実施したい。執行部を見守ってほしい。

杉浦(室蘭、一般会員)

1. 常任理事会および理事会の開催数は前年度よりも少ないが、むしろ回数をふやすべきではないか。

2. 会費の請求について事務局は怠慢である。

星副会長

1. 過去の実績に徴して運営の効果をあげるためには、心配はないと思う。

会費の徴収については通知する。物資幹旋らんに入したのは1日も早く会員に知らせたいからである。

松田(網走) 業務資料の作成に対して感謝するが、内容を検討するに、判断しかねる点が見うけられる。

(内容に「思われる」という表現を用いているので明確にしたい。

議長 予算の執行については、ある程度の流用を認めるという付帯決議で、本議案を原案どおり可決してよろしいか。

(満場「異議なし」)

議長 異議ないと認め原案どおり決定する。

(ここで緊急動議の提案がなされた。)

野際(十勝支部長) 動議として会則変更について提案したい。

(議案を配布し、提案理由について説明する。行政書士法第1条および第2条の改正について)

議長 採決を賛否により決めたいので挙手してほしい。

(その結果、改正案に賛成したもの12名、反対したもの17名となった。)

議長 賛否の結果、緊急動議として提案された本件は採択しない。

議長 議案第3号、役員改選についてを提案する。

星副会長 任期満了により、次の区分による定数の改選を願いたい。

会長 1名
副会長 3名
理事 20名以内(うち10人常任理事)
監事 3名以内
綱紀委員 5名

議長 選出の方法について場内にはかる。

馬場(札幌) 選考委員会を構成(各支部長をあてる)選任すること。会員数によって委員を出してはどうか。

細木(釧路) 選考委員による選任には賛同するが、選挙権者数によることには反対で、国連総会方式でやるべきだ。全道的な視野にたつて、有能な人材を選出してほしい。利益代表を選出するような低い程度でなく、全道的な立場で選考されるよう希望する。

馬場(札幌) 会員数の多い札幌支部から3人程度を選出されたい。

常識的な判断でしてもらいたい。

細木(釧路) 国連方式について説明する。固ろう頑迷な考え方ではない。

議長 挙手により決めたい。

(各支部から1名とするもの22名、札幌支部は3名とするもの13名。)

議長 各支部から1名選出に決まったので、委員名を議長まで出してほしい

(委員名の提出あり休憩)

再開

議長 再開を宣す。(ときに17時9分)

役員は次のとおり選任したので報告する。

会長 藤山利夫
副会長 榎波弥一郎・高田敏一
葛西義雄
理事 南部 琥四郎(札幌)
木川 政 蔵(〃)
大滝 茂(〃)
阿部 考一(〃)
白石 貢(〃)
二本松 善雄(〃)
倉田 宏(〃)
日向寺 正幸(日高)
橋本 雄一(留萌)
佐藤 武正(旭川)

荒 慶次郎(〃)
大 淵 博之(小樽)
杉 浦 幸城(室蘭)
後 藤 勲(空知)
柴 田 克之(空知)
天 野 晴清(十勝)
平 賀 昌夫(十勝)
佐 藤 三千三(網走)
佐 藤 兆 昭(〃)
森 下 森 司(釧路)
監 事 染 川 賢一郎(旭川)
田 村 英 夫(函館)
松 浦 章 介(札幌)
綱紀委員 亘 理 敏 夫(小樽)
岸 尾 正(札幌)
有 馬 範 治(〃)
竹 島 竹 雄(〃)
山 本 潤 治(〃)

議長 役員を選任を諮る。

(満場拍手)

11. 来賓の祝辞

関根司法書士北海道協議会長

網走日行連副会長

議長 以上をもって本総会の議事全部を終了した。議事運営にあたり各位のご協力に対し深く感謝申し上げる。(議長降壇)

12. 閉会のことば

榎波副会長、閉会を宣す。

(ときに17時35分)

上記議事の経過の要領および、その結果を明確にするため議事録を作り、議長および議事録署名員これに記名押印する。

昭和49年5月22日

第15回北海道行政書士会定時総会

議長 野崎 幸
議事録署名員 南部 琥四郎
本村 孝幸

再選 藤山会長と新執行部誕生

常任理事、理事の層

ぐんと若返える

新しく選ばれた理事の初顔合せが6月1日10時15分から、札幌の都市会館で開催された。

再選された藤山会長としては、'49の目標「職域の確立」について、'48の実績に上積みして会員の資質を高揚し、さらには住民との連絡を緊密にする使命がある。仕事は人であると言われるが、定時総会で選出された役員は、副会長をはじめ理事が大幅に変わり、特に札幌支部会員の若手の進出が目立っており、この人たちの持つ時代感覚、行動力こそ次代の本会の望ましい姿であろうし、さしあたっては'49の会務運営に会長をたすける原動力になろう。新役員分担は次のとおり。

榎波副会長→経理部担当

高田 〃 →総務部、企画部担当

葛西 〃 →業研部、監察部担当

総務部長 倉田 宏 常任理事

部員 杉浦 幸城・佐藤 武正

企画部長 二本松善雄常任理事

部員 柴田 克之・橋本 雄一

業研部長 白石 貢常任理事

部員 荒 慶次郎・日向寺正幸・佐藤 (三)

木川 政蔵・森下 森司

監察部長 阿部 孝一常任理事

部員 大滝 茂・後藤 勲・天野 晴清・

佐藤 (兆)

経理部長 南部 琥四郎常任理事

部員 平賀 昌夫・大淵博之

常任理事 (10名)

倉田 宏・二本松 善雄・白石 貢・南部 琥四郎

大滝 茂・阿部 孝一(以上札幌)・杉浦 幸城(室蘭)

柴田 克之(空知)・荒 慶次郎(旭川)・佐藤 三千三(網走)

理事会議案

- 1 常任理事の互選
2. 事務分掌 (各部署委員の選出)
3. 副会長の会長代理の順位と総括業務
4. その他
 - (1) 日行連代議員選出
 - (2) 日行連50年度定時総会場

第1回支部長会で
「実態調査」など協議する

副議長に森谷釧路支部長

49年度第1回支部長会が、6月1日13時から札幌の都市会館で開催された。

野崎 (札幌)、黒島(函館)、奥山(小樽)、代山本 (空知)、荒 (旭川)、捨金 (留萌)、佐藤 (網走)、代関 (室蘭)、金田 (日高)、野際 (十勝)、森谷 (釧路)、——宗谷、根室は欠席——本会から藤山会長はじめ役員出席。

改選役員紹介のあと、支部長会議長出席不可能時のことも考え、副議長に釧路支部長の森谷氏を、野崎札幌支部長が推選し、各支部長も賛成、議長団として議長に野崎、副議長に森谷両氏がそれぞれの席に着いた。(野際氏は辞退) 議案のおもなるものは、次のように話し合いがついた。

1. 会員の实態調査は、根室、宗谷2支部管内は本会で実施、残りは各支部長が最も効率の上がる方法で行う。経費は会員1名当り500円、期限は本年7月末とする。
2. 自動車登録業務、8月末には我が方という本会方針を尊重して、各支部は内部をかため、組織を重じ当分辛抱する。
3. 登録、入会の事務手続は前年度どおりとする。

本会代議員決まる

日行連総会での活躍期待される

6月7日の理事会で、日行連総会に出席する本会代議員が、次のように決定した。

藤山 利夫会長・葛西 義雄副会長・野崎 幸札幌支部長・南部琥四郎常任理事・倉田 宏常任理事・星 享克 (前副会長)・杉浦 幸城常任理事・大滝茂常任理事・阿部 孝一常任理事・二本松 善雄常任理事・木川 政蔵理事。

会費の納期変更

規程改正により

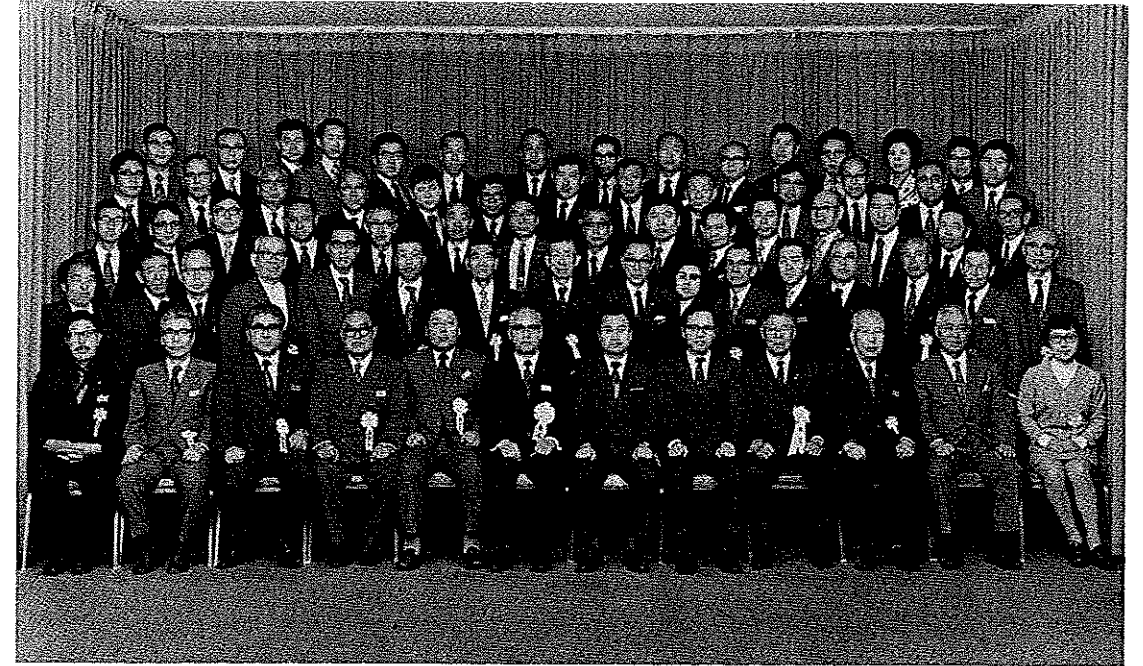
4月と10月に6ヵ月分を前納して下さい。

会員のうごき

月	事由	支部	会員番号	氏名	住所
4	入会	網走	1584	橋本 幸治	紋別郡遠軽町大通北1丁目
	"	札幌	1585	笠松 勝栄	札幌市東区北18条東1丁目
	"	旭川	1586	木沢 定雄	富良野市緑町11丁目
	"	札幌	1587	猪股 諒	札幌市豊平区美園6条4丁目18番地
	"	"	1588	坂本 肇	札幌市西区発寒8-7の3
	"	"	1589	藤島 石蔵	札幌市西区山の手1条5丁目276番地の5
	"	空知	1590	高野 清春	岩見沢市日の出3丁目12
	"	函館	1591	竹村 元雄	瀬棚郡瀬棚町字本町584番地
	"	札幌	1592	風間 喜三郎	札幌市西区手稲稲穂104
	"	函館	1593	鈴木 治勝	函館市中島町28番2号
	"	札幌	1594	川北 熊壽	札幌市北区篠路269番地
	"	"	1595	徳田 敬一	札幌市東区北28条東1丁目779番地
	"	"	1596	須藤 茂元	札幌市東区北28条東1丁目779番地
	"	"	1597	鎌田 勝男	札幌市東区北28条東1丁目779番地
	"	"	1598	土門 弘	札幌市西区発寒7条7丁目569番地の3
	"	"	1599	岩淵 徳太郎	札幌市札幌区南3条西23丁目39番地
	"	函館	1600	今井 敏雄	函館市赤川通町205-228
	"	小樽	1601	古垣 寅吉	余市郡余市町入舟町126番地
	"	十勝	1602	杉江 寔	帯広市東12条南4丁目1番
	"	"	1603	上出 仁郎	帯広市稲田町東1線9番地
	"	宗谷	1604	林田 穎明	稚内市中央3丁目10番13号
	"	札幌	1605	三田 拙夫	札幌市豊平区平岸2条6丁目40
	"	"	1606	東 武男	札幌市中央区南1条東3丁目2番地
	"	"	1607	渡辺 昭憲	札幌市白石区平和通5丁目北87の1
	"	室蘭	1608	小笠原 政幸	苫小牧市幸町1丁目3番16号
	"	札幌	1609	伊藤 正敏	札幌市中央区南21条西8丁目623
	"	"	1610	土門 一太郎	札幌市西区八軒7条東2丁目530番地の21
	"	"	1611	千田 悟	札幌市中央区円山北町7番地9
	"	"	1612	本間 閔之介	札幌市西区山の手2条9丁目374番地
	"	"	1613	湯浅 勇	札幌市豊平区美園3条5丁目
	"	網走	1614	高橋 陸彦	札幌市白石区もみじ台東1丁目2番地
	"	"	1615	福井 重利	北見市三輪25番地
	"	"	1616	山田 享	網走市台町3丁目10番9号
	"	札幌	1617	葛西 彰	札幌市東区北28条東1丁目
	"	"	1618	平野 東三	札幌市北区北20条西5丁目18番地
	"	釧路	1619	小玉 安夫	白糠郡白糠町マサルカ13番地
	"	函館	1620	伊庭野 昌太郎	亀田郡七飯町字本町396番地
	"	札幌	1621	石川 正吉	札幌市中央区南9条西4丁目429番地
	"	"	1622	手塚 佐治郎	札幌市豊平区北野370番地の39
	"	網走	1623	近江 良一	北見市北1条東3丁目2番地
	"	函館	1624	南 武夫	函館市大手町5番10号 日魯ビル
	"	"	1625	菅原 実雄	函館市鍛冶町85-3
	"	"	1626	太田 国男	函館市宝来町5の6
	"	札幌	1627	多田 幸雄	札幌市西区24軒4条7丁目53番地 北海道測量株式会社
	"	空知	1628	神田 康雄	岩見沢市6条西1丁目1番地
	"	網走	1629	加城 敬一	斜里郡斜里町港町1番地
	"	十勝	1630	門崎 国雄	広尾郡忠類村字忠類
	"	旭川	1631	加美山 利夫	富良野市末広町21号 富良野自動車教習所内

月	事由	支部	会員番号	氏名	住所
4	入会	根室	1633	高津敏夫	根室市光和田15番地の2
	"	十勝	1634	中谷音八	帯広市西5条南34丁目55番地
	"	札幌	1635	和泉久蔵	岩見沢市10条東4丁目7番地の2
	"	札幌	1636	高橋始	札幌市西区山の手4条6丁目215
	"	十勝	1637	吉岡正行	上川郡新得町2条南2丁目22番地
	"	室蘭	1638	高橋信行	室蘭市寿町2丁目8番19号
	"	札幌	1639	高田義隆	札幌市中央区南1条西4丁目日の出ビル水原法律事務所内
	"	"	1640	佐々木昭雄	千歳市東雲町3丁目1番地
	"	釧路	1641	亀岡鶴雄	釧路市北大通13丁目9番地
	"	札幌	1642	駒崎堯	札幌市中央区南1条西11丁目1条ビル
	"	"	1643	吉村栄一	札幌市豊平区清田210番地286
	"	網走	1644	菊地勝男	紋別郡遠軽町岩見通り南2丁目
5	網走	網走	1645	篠原忠五	北見市朝日町48番地
	"	旭川	1646	松本庄松	旭川市春光町5区4条2丁目
	"	空知	1647	池永環	滝川市大町69番地
	"	根室	1648	田中誓雄	根室市清隆町3丁目2番地
	"	札幌	1649	宮腰昭二	札幌市東区北44条東5丁目821
	"	"	1650	高井里	札幌市白石区栄通13丁目23
	"	札幌	1651	沢田与代太郎	札幌市北区篠路町拓北71の212
	"	"	1652	石井晃	浜益郡浜益村大字浜益村
	"	"	1653	深沢朝治	札幌市豊平区美園9条2丁目6番地
	"	"	1654	金田正雄	歌志内市字文珠95番地の6
	"	"	1655	柏原哲夫	札幌市豊平区美園4条7丁目
	"	空知	1656	西沢良知	赤平市本町2丁目1番地
	"	十勝	1657	原田勲	十勝郡浦幌町材木町1番地
	"	空知	1658	中神巖	夕張郡長沼町市街地
	"	室蘭	1659	田仲勇造	伊達市末永町58の48
	"	札幌	1660	山田捷二	札幌市豊平区平岸7条13丁目 山田紀方
	"	"	1661	皆川寿美	石狩郡当別町字西小川通57番地
	"	"	1662	佐藤哲也	札幌市中央区南1条西12丁目
	"	"	1663	傍士栄一	紋別市落石町3丁目14番地5
4	本籍変更	函館	872	清水正信	檜山郡厚別町館町127番地
	事務所変更	釧路	759	常見庄司	釧路市春探1丁目11番16号
	"	札幌	1414	今井宣史	恵庭市戸磯623番地20
	"	室蘭	1608	小笠原政幸	苫小牧市幸町1丁目3-16
	"	札幌	1627	田中秀夫	札幌市中央区南24条西11丁目1190番地 翠城マンション
	"	"	1410	川瀬豊秋	札幌市南区藤野262番地の70
	"	函館	1097	浜野淑雄	根室市宝林町1-40
	"	網走	1461	岩垣トキ子	網走市駒場9番地12号
	"	札幌	1200	二本松善雄	札幌市中央区南8条西5丁目 ヒルトンマンション内
5	"	"	1544	米沢興悦	札幌市豊平区中の島2条5丁目 中の沼ハウス2号
4	退会	札幌	1065	山田浩	札幌市白石区青葉町6丁目435番地
	"	十勝	1304	藤野繁喜	帯広市東3条南4丁目5番地
	"	"	375	小川松雄	中川郡美深町字西町40番地

遠路はるばる ご苦労さまでした



とき S.49.5.22

ところ 北海道厚生年金会館
(札幌市中央区北1西12)

編集後記

○新緑の候、お元気で活躍と存じます。役員も大幅に変わり
本会の'49事業は、また1歩前進、会報子もまた忙しくなる
ことでしょう。(H)

—'74 総会特集号 昭和49年6月1日発行—

北海道行政書士会

編集 企画部・会報編集委員会

〒060 札幌市中央区南1条西5丁目愛生館ビル5階

電話 251-4073・251-4061